

回 覧



値小だより

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成29年 9月 1日 第11号

校長 酒井元治

さようなら、なつ...

ご家庭ではちょっとたいへんだったかもしれない夏休みも終わり、2学期が始まりました。今年は（「今年も」か？）酷暑。全国的に猛烈な暑さが続きました。心なしか、クマゼミの鳴き声が年々遅くまで響いているような気がするのは私だけでしょうか？暑さで体調を崩された方はいらっしゃいませんか？

しかし、やはり季節は流れるもの。お盆を過ぎたあたりから、だいぶ朝夕が過ごしやすくなってきました。

まずは、この夏休み子どもたちが大きな事故等に合うこともなく、元気に登校してくれたことを嬉しく思うとともに、ご家庭でのご協力に感謝いたします。

どうでもいいことですが、私の夏は島外で研修を受けたり、学校の環境整備をしたり、日頃できない仕事をしたりの日々でした。私自身夏休みの宿題としていたことはいくつかあります。その2つを紹介します。

一つめは、大島分校の廊下・壁のペンキ塗りです。昨年度に引き続きの作業です。大島分校職員と大島分校保護者、小値賀小学校本校職員数名での作業で大島分校をリニューアルしてきました。古くても大切に使いたい校舎です。

二つめは、ホームページに卒業写真を掲載していくことです。学校にあった卒業写真をデータ化し、ネットで見られるようにしているところです。学校に卒業写真がない年度もあります。ホームページをご確認ください、掲載されていない年度の卒業写真をお持ちでしたら、ご協力いただくと幸いです。まだまだ途中ですが、どうぞご覧ください。（ちなみに斑小小学校はホームページに全ての卒業写真を掲載しています。「斑小小学校」で検索してみてください。閉校時にやっちゃいました。）



学校にある卒業写真で一番古いもの
昭和35年度 第14回卒業生(1/5)



海外へも行ってきました！

しっかり有給休暇で夏休みもとりました。タイ在住の小中の同級生から誘われ、これまた小中の同級生と思いついてタイに行ってきました。2泊3日の小旅行です。現地の友だちは、北松西校からも毎年就職者が出ている某自動車部品メーカーの管理職で、お抱え運転手付きのトヨタ・カムリがいろいろなところを回ってくれました。毎年、盆・正月に飲んでいる仲間なので、ストレス・フリーの気兼ねない旅行でした。女性も2人いましたが、彼女らは豪華ホテルに滞在（それでも物価が安いので2食付き1万円以下）、私は友人のマンション滞在です。私自身、約30年ぶりの海外旅行です。タイ・バンコクの人口は820万人（東京は1370万人）、アジア有数の大都市です。モダンな高層ビルの脇にはバラック建ての小屋のような家屋も残っていて、貧富の差が歴然としています。

また、夜遅くの繁華街の路地には、3歳ぐらいの女の子が座り込んだまま寝ていました。その前には、ペットボトルを半分に切った容器に硬貨が数枚、物乞いをさせられているのです。1時間ほど経って、同じところを通ると、その女の子は目を覚まし、巾着みたいな財布の中のお金を数えています。親はどこかで観察しているかもしれません。これが、この子の日常であり、仕事なのでしょう。

さらには、タクシーがメーターを倒さないで高額な料金を請求しようとする（未然に防ぎましたが）など、まだまだ私たち日本人には考えられない現実が存在する東南アジアでした。私にはいろいろな意味で勉強させられる旅行でしたし、同郷の友人の有り難さが身にしみて感じられる旅行でした。

付き合い方はどうであれ、小値賀の子どもたちも大人になってからも付き合える友だち関係を育てて欲しいと改めて思いました。



ちょっと自慢できる自分になろう！

(9月1日 始業式講話より)

2学期を迎え、始業式の講話では、子どもたちにどんな夏休みだったかを問いかけたり、前述のタイ旅行の話をして「みんなも一生お付き合いできる友達になれるとそれは宝でしょうね。」というような話をしたりした後、もう一つ私が夏休みに取り組んだことを話しました。

それは、1学期終業式に「夏休みにやりたいこと」として話をしていた、豪雨災害ボランティアです。8月11日に朝倉に行って、ボランティアをやってきました。私は一人で行ったので、見ず知らずの方々と10人組になり、とある納屋の泥のかき出しや中に入っていた道具の洗浄をしました。被災後1ヶ月経つというのに、まだどぶ臭さが残る街角には、たくさんの瓦礫や1階部分が使用不能になった家屋、未だに泥に埋まった軽自動車がありました。

そんな中、たくさんの方がボランティアに訪れています。聞けば、休日には1~2千人、平日でも数百人の方が来られるそうです。年齢も様々、学生グループもあれば、ご年配の方の姿も多くありました。私のいたグループではお隣の熊本県から「熊本は地震でお世話になりましたから」と参加された年輩の方、「土建業を定年退職し、何回かこんなボランティアに参加しているんです。」と言われる岡山の方、また偶然にも同じ岡山から単独で参加したという中学校の先生、グループで紅一点の若い女性は滋賀県からの参加でした。見ず知らずの者同士が声を掛け合って、協力しながら、真夏の日が照りつける中での作業でした。首にかけたタオルは絞れば汗がしたたり落ちるほどでした。こうやって日本中のいろいろなところから、いろいろな人の手が集まって被災地の復興を手伝っています。私もちょっとがんばったかなと子どもたちに自慢できる体験です。たいへん勉強にもなりました。

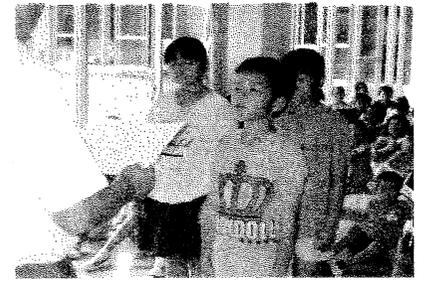
このように子どもたちにも「ちょっと自慢できる自分なって欲しい」という話です。これまで苦手だった発表をちょっとがんばったとか、家庭での学習をこれまで以上にがんばったとか、恥ずかしかったあいさつをがんばったとか、「ちょっと自慢できる自分になる」2学期です。



写真は被災者に配慮し、撮影を自粛させられるのでインターネットからです

表彰(暗唱、多読賞)

1学期の終わりに暗唱と多読賞(今回は読書貯金も)の表彰をしました。早く紹介したかったのですが、紙面の都合で今回になってしまい申し訳ありません。



暗唱の部

暗唱テキスト10段合格

4年 角永 佑太 4年 田中 海音 5年 川口 優紀 5年 松田 すぐり

読書の部(多読賞)

1年

1位 中野 夏希(90冊) 2位 小崎 紗理奈(74冊) 3位 三浦 珠里(31冊)

2年

1位 神崎 茉実(73冊) 2位 田中 優衣子(60冊) 3位 山田 愛(52冊)

3年

1位 田中 瑠海(64冊) 2位 森岡 聖蓮(63冊) 3位 新田 結月(53冊)

4年

1位 堀 遥嘉(36冊) 2位 小辻 太一郎(27冊) 3位 辻 彩弥斗(25冊)

5年

1位 田中 優花子(50冊) 2位 川口 優紀(43冊) 3位 松田 すぐり(39冊)

6年

1位 渡部 愛加(86冊) 2位 濱田 朔羅(82冊) 3位 森 拓巳(32冊)

読書貯金賞

1年 野澤 玖太(56冊) 2年 神崎 茉実(73冊) 3年 森岡 聖蓮(59冊)

4年 田中 海音(22冊) 5年 川口 優紀(40冊) 松田 すぐり(40冊)

6年 渡部 愛加(82冊)

読書貯金は「読書貯金カード」に自分が読んだ本を記録した冊数です。学校の図書室だけでなく、自宅の本や町営図書館の本も含まれます。また、読んだけどちゃんと記録していなかったと子もいるかもしれません。それと比べ、多読賞は学校図書室よりパソコンで借りた冊数がそのまま数字として表れています。どちらにしても、かなり冊数を読んでいるこの子たちはすごい！